

機関番号：12601

研究種目：学術創成研究

研究期間：2007～2011

課題番号：19GS0101

研究課題名（和文） 総合社会科学としての社会・経済における障害の研究

研究課題名（英文） A study on disability in a socio-economic context: toward a unified social science

研究代表者

松井 彰彦 (MATSUI AKIHIKO)

東京大学・大学院経済学研究科・教授

研究者番号：30272165

研究成果の概要（和文）：いわゆる「障害者」のみならず、長期疾病者や顔にあざのあるユニークフェイス等、制度と制度の狭間に落ち込んでいる人々にも焦点を当て、彼らが直面する社会的障害の共通項を探った。ゲーム理論や障害学を用いた理論研究に加え、障害者団体や地方自治体を通じた障害当事者およびその家族への調査、企業を対象とした調査、長期疾病者を対象とした調査、ネパールやフィリピンでの海外調査を展開し、報告書にまとめた。

研究成果の概要（英文）：We focus not only on “people with disability (PwD)” in its narrow sense, but also on those stuck between different systems, including people with long standing health problems and people with facial disfigurement, and study social barriers in their way. In addition to theoretical analysis using game theory and disability studies, we conducted statistical surveys of PwD in cooperation with disability groups and local government, of firms, of patients with long standing health problems. We also conducted statistical survey in foreign countries such as Nepal and Philippines.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	67,900,000	20,370,000	88,270,000
2008年度	85,500,000	25,650,000	111,150,000
2009年度	92,600,000	27,780,000	120,380,000
2010年度	87,800,000	26,340,000	114,140,000
2011年度	80,800,000	24,240,000	105,040,000
総計	414,600,000	124,380,000	538,980,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・理論経済学

キーワード：ゲーム理論・計量経済学・障害学・障害の経済学・社会的障害

1. 研究開始当初の背景

近年、障害者の側からのソーシャル・インクルージョンの要請が高まり、中度・重度の障害者も積極的に街に出るようになったものの、経済合理性を無視したところに真の障害者政策はあり得ない。政府がどのような規制の網をかけても抜け道はあるからである。インセンティブを考えたうえで、障害問題にアプローチする必要がある。また、経済学において標準的な計量分析も障害問題の研究で

はほとんど行われていない。一方、経済学においては、障害問題は周縁の問題とみなされ、顧みられることはほとんどなかった。

2. 研究の目的

理論およびそれに基づいた計量分析を通して、さまざまな障害者施策や制度の社会・経済的影響および「障害」の身体的側面と社会的側面との関連を理論的・定量的に分析する。

3. 研究の方法

全体の研究を5つの分析グループに分け、それぞれに核となる研究者を配置している。各グループを有機的に関連させるため、1～2ヶ月に一度の全体会合を通じて、意見交換をしている。

なお、この全体会合および成果の発信の場では、十分な情報保証とアクセシビリティの確保に努めている。

パクト等を内閣府の障害者制度改革推進会議の動きをリアルタイムで追いつつ、研究を遂行している。

事例・実験分析グループ：重複障害、女性障害者といった制度の狭間に落ち込む人々にスポットライトを当てた研究を行っている。

計量（実証）分析グループ：国内調査では1000部強の調査票を回収した。回収率は57%に達した。長期疾病者の経済調査を行った。

歴史分析グループ：「近代化」のなかで「障害者」が生み出される歴史的過程を分析している。

理論分析グループ：帰納論的ゲーム理論、量子論的ゲーム理論など、ゲーム理論の最先端を開拓しながら研究を進めている。盲ろうという重複障害の事例研究をベースにその困難がミクロの支援体制とマクロの社会制度の支援の統合によって克服されていく過程を障害学の視点に立脚して分析している。

4. 研究成果

プロジェクト開始早々に得られた最大の知見は、「障害」の広がりや外延を研究することの必要性の再認識であった。一言でこの問題を表せば、われわれは何をもって、「だれを『障害者』と呼ぶのか」という問いへの答えを模索しなければ、障害問題は読み解くことができない、ということである。

とくに小さな声しか出せない者たちは、健常者のための制度と「障害者」のための制度の狭間に落ち込んでしまい、光が当たらないという点に着目し、重複障害、女性障害者、顔にあざのある「ユニークフェイス」の研究に重点を置き、この点を明らかにした。

人々の意見を集約して「障害」の定義を与えることは不可能であることが理論的に示された。観察者が観察することで状態が変わるといった問題に量子論の観点から取り組んだ。

イギリス・アメリカ・ドイツ・日本といった国の歴史資料を解読し、「障害」概念の形成・普及・変容の実態を解明した。

もう一点、大きな成果は統計調査である。日本調査として、障害者調査および患者調査を行った。

(1) 障害者調査

① 団体調査

身体障害・精神障害・知的障害・発達障害の障害者団体の協力を得て、団体の会員の方を対象に統計調査を実施した。日常生活時間の配分、医療・福祉にかかる費用、支援・介助の状況、就労状態、経済状態、障害の状況、個人属性などを調査した。

② 自治体調査

三鷹市の協力を得て、三鷹市で障害者手帳の交付を受けている方を対象に統計調査を実施した。身体障害者・精神障害者・知的障害者について、日常生活時間の配分、医療・福祉にかかる費用、支援・介助の状況、就労状態、経済状態、障害の状況、個人属性などを調査した。

③ 企業調査

愛知県・福井県の労働局のリストにある企業を対象に統計調査を実施した。無記名式の調査票を送付し、業種や人員数等の企業特性、雇用率や支援制度利用の有無、将来の雇用の可能性などを調査した。

(2) 患者調査

① 慢性骨髄性白血病患者実態調査

東京大学医科学研究所と共同で慢性骨髄性白血病患者の患者会の協力を得て、慢性骨髄性白血病患者の方に統計調査を実施した。発症時期、イマチニブ（商品名：グリベック）の服用状況、副作用、医療費負担、就労状態、経済状態、個人属性などを調査した。

② 卵巣がん体験者調査

卵巣がん体験者の会スマイリーの協力を得て、会員の方を対象に統計調査を実施した。治療状況、医療・福祉にかかる費用、就労状態、経済状態、個人属性などを調査した。

③ 医療機関調査

亀田総合病院の協力を得て、病院の患者を対象に統計調査を実施した。治療状況、医療・福祉にかかる費用、就労状態、経済状態、個人属性などを調査した。

海外調査としては、フィリピン調査とネパール調査を行った。

(1) フィリピン調査

・フィリピン・バタンガス障害者調査

フィリピンのバタンガスという農村地域における障害者の実態調査を行った。

農村部における盲・ろう・肢体不自由の三障害についての状況の差異をそれをもたらしている要因について分析するとともに、非障害者の生計状況と障害者の生計状況について比較し、都市部とも比較することを目的とした。

分析の結果、農村部では学校教育を受けた人たちが極端に少ないほか、都市部であれば存在するサービス業を中心とした業種への就業機会が少なく、障害者の就労機会が農業を中心とせざるを得ないため、盲・ろうで就労状況が逆転するなどの違いが見られた。ま

た貧困率は、農村部において障害者のそれは全障害を通じて少なかったが、都市部に比べると貧困率で見た非障害者との差はより小さいなどの特徴が明らかとなった。

(2) ネパール調査

・ネパールにおける障害者の実態調査

ネパール・ポカラ市の障害者統合学校において、差別の性質・度合いを厳密に計測するための経済実験を設計・実施し、統合教育が障害者に対する差別を緩和する傾向があることを明らかにした。

これらの統計調査については、それぞれ調査報告書を作成した。調査のデータを用いた様々な定量分析が今後期待される。

また、事例・実験分析チームは、東日本大震災における、社会的障害に関する実態調査の一環として、福島県の高校生の学力を客観的に測り、併せて学力向上のための支援を行った。支援は東京大学の学生を中心とし、ジュニア・メンターのような形で大学での勉強の楽しさやコツを伝え、経済実験も併せて行った。アンケート調査等と組み合わせ、どのような学生にどのような支援が効果的かを計測し、今後の支援に活かすことのできる研究を行った。

社会への研究成果の発信の場として、国内では、計 8 回にわたる公開講座を開催した。2010 年京都において「統計調査から今後の障害者施策を考える」と題し、公開講座を行った。また、東京では 2011 年 3 月「障害者の教育と経済活動」について計量分析による分析結果を公開講座で発表した。これらの公開講座においては、会場に車いすで壇上に上がるためのスロープや手話通訳、PC 文字通訳、磁気ループなど情報保障面も充実させていった。

海外においては、2009 年英国で行われた東大フォーラムで、メインのひとつとして、「障害と経済」の国際会議をメトロポリタン大学で開催し、多数メンバーが参加した。松井彰彦、澤田康幸、福島智、星加良司等が発表を行い、その成果として、“Creating a Society for All: Disability and Economy” をリーズ大学の Disability Press から刊行した。また、東京大学で行われた“2009 Far East and South Asia Meeting of the Econometric Society”では、松井彰彦、澤田康幸、Kamal Lamichhane、川越敏司、両角良子、金子能宏、森壯也、関口洋平がそれぞれ発表を行った。2010 年には、ベルリンで行われた国際会議“15th World Congress of Inclusion International”に松井彰彦および長瀬修が報告を行った。

2011 年には、シラキューズ大学にて、国際会議“International Conference on Disability Economics”を共催し、松井彰彦、長瀬修、澤田康幸、Kamal Lamichhane、両角

良子、川越敏司、長江亮、川島聡が参加し、発表を行った。また、ワシントン D.C. 世界銀行本部およびニューヨーク国際連合本部において、松井彰彦、澤田康幸、Kamal Lamichhane が発表を行い、国際会議 11th NNDR (Nordic Network on Disability Research) conference (レイキャビク) では長瀬修、川島聡、田中恵美子、臼井久実子、瀬山紀子が参加し発表を行った。トロントで開催された“International Health Economic Association”では、両角良子、児玉有子が 2 件の発表を行った。

本プロジェクトの最後に 2012 年 3 月、公開コンファレンス「障害と経済」を開催し、5 年間の軌跡、研究の一端を紹介した。また、5 年間のプロジェクトの成果および活動をまとめた、「障害と経済の研究」報告書(全 31 頁)を作成し配布した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 92 件)

(査読有: 33 件、査読無: 59 件)

① Toshiji Kawagoe and Akihiko Matsui, “Economics, Game Theory and Disability Studies: Toward a Fertile Dialogue”, *Inclusive Communities: A Reader*, 査読有, 2012, 119-131.

② In-Koo Cho, Akihiko Matsui, “A Dynamic Foundation of the Rawlsian Maxmin Criterion”, *Dynamic Games and Applications*, 査読有, 2 (1), 2012, 51-70.

③ 澤田康幸、木村秀美、森悠子, “Aid Proliferation and Economic Growth: A Cross-Country Analysis”, *World Development*, 査読有, Vol. 40, No. 1, 2012, 1-10.

④ Joe Chen, Yun Jeong Choi, Kohta Mori, Yasuyuki Sawada, Saki Sugano, “Socio-Economic Studies on Suicide: A Survey”, *Journal of Economic Surveys*, 査読有, 26 (2), 2012, 271-306.

⑤ 澤田康幸・庄司匡宏・サンガ・サラス, “自然災害被害に対して借り入れは有効に作用するか? 南インドにおける津波被災者データの分析から”, *経済研究*, 査読有, 第 62 巻 第 2 号, 2011, 129-140.

⑥ 長江亮, “均等推進・ファミリーフレンドリー施策と企業業績-施策が円滑に機能する条件”, *早稲田大学高等研究所紀要*, 査読有, 3 巻, 2011, 17-33.

⑦ Yasuyuki Sawada and Satoshi Shimizutani, “Changes in durable stocks, portfolio allocation, and consumption expenditure in the aftermath of the Kobe earthquake”, *Review of Economics of the Household*, 査読有, 9(4), 2011, 429-443.

- ⑧ 森壯也, “南アジアにおける「障害と開発」”, 森壯也編『南アジアの障害当事者と障害者政策 障害と開発の視点から』, 査読有, 2011, 3-27.
- ⑨ 森壯也, “インドの障害当事者運動ふたつのろう者の運動の対比から”, 森壯也編『南アジアの障害当事者と障害者政策 障害と開発の視点から』, 査読有, 2011, 28-56.
- ⑩ Soya MORI, “Pluralization: An Alternative to the Existing Hegemony of JSL”, G. Mathur and D. J. Napoli, *Deaf Around the World*, Oxford University Press, 査読有, 2011, 333-338.
- ⑪ Tetsuo Yamamori, Kazuhiko Kato, and Akihiko Matsui, “When You Ask Zeus a Favor: The Third Party’s Voice in a Dictator Game”, *Japanese Economic Review*, 査読有, Vol. 61, 2010, 145-158.
- ⑫ Jeong-Joon Lee and Yasuyuki Sawada, “Precautionary Saving under Liquidity Constraints: Evidence from Rural Pakistan”, *Journal of Development Economics*, 査読有, 91(1), 2010, 77-86.
- ⑬ Soya MORI, “Testing the Social Model of Disability: The United Nations and Language Access for Deaf People”, S. Burch and A. Kafer, eds., *Deaf and Disability Studies*, Gallaudet University Press, 査読有, 2010, 235-244.
- ⑭ 森壯也, “障害者差別と当事者運動—フィリピンを事例に—”, 小林昌之編『アジア諸国の障害者法』アジア経済研究所, 査読有, 2010, 183-223.
- ⑮ Yohei Sekiguchi, Kiri Sakahara and Takashi Sato, “Uniqueness of Nash equilibria in a quantum Cournot duopoly game”, *Journal of Physics A: Mathematical and Theoretical*, 査読有, 43, 2010, 145303 (<http://iopscience.iop.org/1751-8121/43/14/145303>).
- ⑯ Toshiji Kawagoe and Hakan Holm, “Face-to-Face Lying - An experimental study in Sweden and Japan”, *Journal of Economic Psychology*, 査読有, 31, 2010, 310-321.
- ⑰ Toshiji Kawagoe, “Can Chocolate Be Money as a Medium of Exchange? Belief Learning vs. Reinforcement Learning”, *Evolutionary and Institutional Economic Review*, 査読有, 5, 2009, 279-292.
- ⑱ Toshiji Kawagoe and Hirokazu Takizawa, “Equilibrium Refinement vs. Level-k Analysis: An Experimental Study of Cheap-talk Games with Private Information”, *Games and Econom-*

ic Behavior, 査読有, 66, 2009, 238-255.

⑲ Akihiko Matsui, “A Theory of Man as a Creator of the World”, *Japanese Economic Review*, 査読有, 59, 2008, 19-32.

⑳ Tetsuo Yamamori, Kazuhiko Kato, Toshiji Kawagoe, and Akihiko Matsui, “Voice Matters in a Dictator Game”, *Experimental Economics*, 査読有, 11, 2008, 336-343.

- 松井彰彦, “経済学・ゲーム理論と障害”, *障害学研究*, 査読有, 4, 2008, 8-33.

- 川越敏司, “経済学と障害学は対話できるか?”, *障害学研究*, 査読有, 4, 2008, 33-62.

- 長瀬修, “障害者の権利条約と日本の障害差別禁止法制の課題”, *障害学研究*, 査読有, 4, 2008, 63-81.

[学会発表] (計90件)

① Satoshi, FUKUSHIMA, “Communication Challenges from the Perspective of a Deaf-Blind Person”, 特別講義, 2011年10月11日, Rochester Institute of Technology and The National Technical Institute for the Deaf (USA).

② 森壯也, “IS Interpreter in Asia and Pacific region: From experience as IS Interpreter for JICA-JFD Deaf leadership training programme”, WASLI 3rd World Conference, 2011年7月16日, Southern Sun Elangeni Hotel (南アフリカ).

③ Toshiji Kawagoe, “Guilt Aversion Revisited: An Experimental Test of a New Model”, International Economic Association 16th World Congress, 2011年7月7日, Tsinghua University, Beijing (China).

④ 川越敏司, “Guilt Aversion versus False Consensus Effect: An Experiment with Communication”, IAREP/SABE/ICABEEP 2010 Conference, 2010年9月5日, ケルン(ドイツ).

⑤ Soya MORI and Tatsufumi Yamagata, “Measurements to Assess Progress in Rights and Livelihood of Persons with Disabilities: Implications Drawn from the IDE-PIDS Socio-Economic Survey of PWDs”, UNESCAP, Expert Group Meeting Closing the Gap: Strategies to Combat and Monitor Exclusion in the Asia and the Pacific Region, 2009年9月29日, 国連ESCAP(Thailand).

⑥ 川越敏司, “Level-k Analysis of Experimental Centipede Games”, 2009 Europe

ESA Innsbruck Austria, 2009年9月17日, インズブルック大学 (オーストリア).

⑦ Ryoko Morozumi, “Smoking Behavior and the Residential Characteristics: An Analysis Based on the Compound Poisson Model”, 7th World Congress, International Health Economic Association, 2009年7月14日, Beijing International Convention Center (China).

⑧ 金子能宏, “Income Security and Economic Effect of Welfare Measures for the Persons with Disabilities”, Foundation for International Studies on Social Security 16th Research Seminar, 2009年6月17日, Sigtuna (Sweden).

⑨ 福島智, “ネパールの盲ろう者福祉を進めるために——日本の経験から”, Nepal Japan International Seminar on Deafblindness, 2009年3月5日, United World Trade Center, Tripureshwor (Nepal).

⑩ Mai Yamashita, “Post-War Transition in the Japanese Nurse’s Fee-Charging Employment Agency”, American Association for the History of Nursing, 2008年9月27日, University of Pennsylvania (USA).

⑪ Yasuyuki Sawada, “Learning, Risk, and Credit in Households’ New Technology Investments:”, Northeast Universities Development Consortium Conference, 2007年10月26日, Harvard University (USA).

⑫ Toshiji Kawagoe, “Lies and Poker Faces - An Experimental Study”, The 26th Arne Ryde Symposium 2007, Communication in Games and Experiments, 2007年8月25日, Lund University (Sweden).

⑬ Ryoko Morozumi, “Testing unitary models of labor supply on decision-making systems”, International Health Economic Association, 2007年7月9日, Copenhagen Business School (Denmark).

[図書] (計 36 件)

① Akihiko Matsui, Dan Goodley, Yasuyuki Sawada, Alison Sheldon, Colin Barnes, Rebecca Lawthom, Tom Shakespeare, Satoshi Fukushima, Ryoji Hoshika, Machiko Kawamura, Satoshi Kawashima, Osamu Nagase, Miki Nishikura, Kiri Sakahara, Takashi Sato, Yohei Sekiguchi Yuriko Iino, Noriko Seyama, Kumiko Usui and Kamal Lamichhane (Akihiko Matsui, Osamu Nagase, Alison Sheldon, Dan Goodley, Yasuyuki Sawada and Satoshi Kawashima eds.) Disability Press, “Creating a Society for All: Disability and Economy”, 2012, p.200.

② 松井彰彦・両角良子・金子能宏・加納和子・河村真千子・澤田康幸・田中恵美子・長江亮・長瀬修・森壮也, Economy and Disability Press, “障害者の日常・経済活動調査 (団体調査)”, 2012, p.274.

③ 松井彰彦・西倉実季・白井久実子・瀬山紀子・河村真千子・長瀬修・大谷誠・山下麻衣・星加良司・飯野由里子・川島聡・関口洋平・坂原樹麗・佐藤崇・福島智 (松井彰彦・川島聡・長瀬修 編), 東洋経済新報社, “障害を問い直す”, 2011, p.400.

④ 福島智, 明石書店, “盲ろう者として生きて—指字によるコミュニケーションの復活と再生”, 2011, p.507.

⑤ 川越敏司、他 5 名, 東京財団仮想制度研究所 VCASI, “障害の社会モデルから見た政策的インプリケーション—法学, 障害学, 社会福祉学, 経済学の対話”, 2010, p.69.

⑥ Jose Ramon Albert, Soya Mori, Celia Reyes, Aubrey Tabuga, and Tatsufumi Yamagata, Institute of Developing Economies-JETRO, “Income Disparity among Persons with Disabilities Assessed by Education and Sex: Findings from a Field Survey Conducted in Metro Manila, the Philippines”, 2010, p.32.

⑦ 川越敏司, NTT 出版, “行動ゲーム理論入門”, 2010, p.293.

⑧ 安田洋祐・川越敏司他、計 7 名, NTT 出版, “学校選択制のデザイナーゲーム理論アプローチ”, 2010, p.173.

⑨ 坂上貴之・川越敏司他、計 7 名, 朝倉書店, “意思決定と経済の心理学”, 2009, p.213.

⑩ 田中恵美子, 生活書院, “障害者の「自立生活」と生活の資源”, 2009, p.435.

⑪ 西倉実季, 生活書院, “顔にあざのある女性たち—「問題経験の語り」の社会学”, 2009, p.379. (山川菊栄賞)

⑫ Renu Addlakha・Stuart Blume・Patrick Devlieger・Osamu Nagase・Myriam Winance eds., Orient Black Swan, “Disability and Society : A Reader”, 2009, p.476.

⑬ 長瀬修・東俊裕・川島聡編著, 生活書院, “障害者の権利条約と日本—概要と展望”, 2008, p.307.

⑭ 森壮也, 日本貿易振興会アジア経済研究所, “森壮也編(2008)『障害と開発—途上国の障害当事者と社会』”, 2008, p.332.

[産業財産権]
特になし

[その他]
ホームページ等
<http://www2.e.u-tokyo.ac.jp/~read/jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松井 彰彦 (MATSUI AKIHIKO)
東京大学・大学院経済学研究科・教授
研究者番号：30272165

(2) 研究分担者

金子 能宏 (KANEKO TAKAHIRO)
国立社会保障・人口問題研究所・社会保障基礎理論研究部・部長
研究者番号：30224611

川越 敏司 (KAWAGOE TOSHIJI)
公立ほこだて未来大学・システム情報科学部複雑系科学科・准教授
研究者番号：80272277

関口 洋平 (SEKIGUCHI YOHEI)
東京大学・大学院経済学研究科・助教
研究者番号：10573850

(H20→H21: 研究協力者)

田中 恵美子 (TANAKA EMIKO)
東京家政大学・人文学部教育福祉学科・講師
研究者番号：10506736

(H20: 連携研究者)

西倉 実季 (NISHIKURA MIKI)
同志社大学・文化情報学部・助教
研究者番号：20573611

(H20→H21: 研究協力者)

福島 智 (FUKUSHIMA SATOSHI)
東京大学・先端科学技術研究センター・教授
研究者番号：50285079

森 壮也 (MORI SOYA)
独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・開発研究センター・主任研究員
研究者番号：20450463

(H20: 連携研究者)

両角 良子 (MOROZUMI RYOKO)
富山大学・経済学部・准教授
研究者番号：50432117

(3) 連携研究者

井伊 雅子 (II MASAKO)
一橋大学・経済学研究科・教授
研究者番号：50272787

(H19: 研究分担者)

石川 竜一郎 (ISHIKAWA RYUICHIRO)
筑波大学・大学院システム情報工学研究科・講師
研究者番号：80345454

岡崎 哲二 (OKAZAKI TETUJI)
東京大学・大学院経済学研究科・教授
研究者番号：90183029

(H20、H22: 研究分担者)

澤田 康幸 (SAWADA YASUYUKI)
東京大学・大学院経済学研究科・教授
研究者番号：40322078

(H19→H20: 研究分担者)

清水 崇 (SHIMIZU TAKASHI)
関西大学・経済学部・准教授
研究者番号：80323468

(H19: 研究分担者)

遠山 真世 (TOYAMA MAYO)
立教大学・コミュニティ福祉学部・助教
研究者番号：20409551

(H19→H22: 研究分担者)

長江 亮 (NAGAE AKIRA)
早稲田大学政治経済学術院・助教
研究者番号：80468876

(H20: 研究分担者)

星加 良司 (HOSHIKA RYOJI)
東京大学・先端科学技術研究センター・助教
研究者番号：40418645

山下 麻衣 (YAMASHITA MAI)
京都産業大学・経営学部・准教授
研究者番号：90387994

(H19→H22: 研究分担者)

(4) 研究協力者

臼井 久実子 (USUI KUMIKO)
東京大学・大学院経済学研究科・特任研究員
加納 和子 (KANO KAZUKO)

東京大学・大学院経済学研究科・特任研究員
川島 聡 (KAWASHIMA SATOSHI)
東京大学・大学院経済学研究科・特任研究員
研究者番号：60447620

河村 真千子 (KAWAMURA MACHIKO)
東京大学・大学院経済学研究科・特任研究員
倉本 智明 (KURAMOTO TOMOAKI)

東京大学・大学院経済学研究科・特任講師
栗原 房江 (KURIHARA FUSAE)
東京大学・大学院経済学研究科・特任研究員
坂原 樹麗 (SAKAHARA KIRI)

東京大学・大学院経済学研究科・特任研究員
佐藤 崇 (SATO TAKASHI)
東京大学・大学院経済学研究科・特任研究員
研究者番号：30511331

瀬山 紀子 (SEYAMA NORIKO)
東京大学・大学院経済学研究科・特任研究員
長瀬 修 (NAGASE OSAMU)
東京大学・大学院経済学研究科・特任准教授

研究者番号：60345139

(H19: 研究分担者)

山森 哲雄 (YAMAMORI TETSUO)
東京大学・大学院経済学研究科・特任研究員
研究者番号：50552006